

**平成 20 年度 NPO からの協働事業提案**  
**「盲導犬の入店・宿泊拒否を解消し、県内の観光事業および三重県のイメージアップをはかる、行政および関連業者団体との協働事業」**

第 2 回公開検討会 報告書

日時 平成 20 年 8 月 5 日（火）13:30～15:30

場所 伊勢市二見町生涯学習センター 2 階第 3 室

参加者 伊勢志摩バリアフリーツアーセンター（野口） 社会福祉室（徳本）  
伊勢志摩 NPO ネットワークの会（森本） 健康福祉総務室（鈴木）  
観光交流室（藤田）男女共同参画・NPO 室（堀木、明石）  
三重補助犬普及協会（多賀、小川）

#### **検討会資料確認**

##### **前回の議事の流れ確認**

- ・事業の位置づけとして三重補助犬協会に委託をして進めていく。
- ・現在のメンバーで骨子が出来るまで進めていくが、今後はオープンにして他にも声をかけていく。
- ・情報の共有のため、それぞれの過去の取り組みを確認した。
- ・モデル事業として「トラブルのない伊勢志摩」事業を行なう。

##### **ファクトシートによる事実確認**

- ・その中で次のように訂正。盲導犬 補助犬、宿泊施設や飲食店 宿泊施設をはじめとする観光関連施設
- ・障害者を含んではどうかという意見について、この事業については補助犬だけにする。
- ・また、受け入れ 100%の表現について 自分はだめでも紹介することなど、ネットワークを含めて 100%を目指す。

##### **若おかみの会への訪問報告**

南伊勢町おかみの会 7 月 2 日南伊勢町町民会館 PM1:00～3:00

和風旅館・飲食店の女将 7 名

- ・観光協会より 4 年前の鳥羽のセミナーの紹介を受け参加してよくわかった。
- ・客筋として、釣り客・家族など少人数の受け入れで、家族経営のところが多い。
- ・印象として、視覚障害者が触れて楽しめるスポットなどがあり、少人数のイベ

ントを開催して、触れ合ってもらうことが出来そうな感触あり。

鳥羽の梅のつぼみの会への訪問報告

- ・野口さんのブログに基づき、報告してもらう。
- ・会議の前に食事に入った店では、入店 1 回あり。心配になるようなことは何もなかった。と理解あり。このように理解をしていただいているところに入ることとはとても気持ちがいいことである。
- ・おかみの会では疑問がたくさんあり、宿泊の方法が多様化している中で、受け入れていくにはどうしたらよいか、前向きな質問がでた。

以下資料に基づき説明。

- ・アレルギー、犬嫌いの人にどのように対応したらよいか。
  - ・ワンちゃんのトイレは？
  - ・毛は絶対落ちないですか？
  - ・ご主人が風呂に入るときは？
  - ・他の客のクレームが一番心配である。
  - ・補助犬受け入れ旅館からのリンク用ホームページ（補助犬の情報提供）を作ってはどうか。
- ・このように実際受け入れようと思うと、いろいろな疑問があります。この企画の必要性を感じました。
- また、このような質問の場がもっとあったほうが良いと思う。
- 我々が当然と思っていることでも、受け入れ側としてはわからないことがあるが、これは国民全部が知っているべきものである。
- ・事業者の不安を聞きながら、事業を進めていく。  
一緒に考えて、理解、対策をたてていく。
  - ・戸別訪問が最終目的であるが、これを成功に導くための方法手段として、いろいろな企画、対策をたて、事業者などの理解、協力を仰ぐ。
  - ・犬アレルギーの人が全国でどれくらいいるかはわからない。

### 具体的事業の検討

- ・最初の発想は実際の姿を見てもらって理解してもらおうということだった。
- ・おかみの会訪問での実績を踏まえると、地元から運動がおこり活力を高めていくアプローチが必要である。これを中心に据えていくことがメリットになる。この事業が、起爆剤となってくれるなら、後は抜けているところのフォローが出来ればよい。

- ・最初の「自分たちだけが動く」から「地元の人との動きを加える」ことによって、大きな力になる。伊勢志摩はバリアフリーの先進地といわれているが、補助犬については遅れている。
- ・観光客に伊勢志摩の悪いイメージを与えないように、クレームを事前に食い止めたい。
- ・「受け入れなければいけないから、受け入れるのではなく理解して受け入れて欲しい。」
- ・戸別訪問では、毛やにおい、掃除の仕方など、実験実証をし、納得してもらえるプレゼンを行う。
- ・宿泊のときの不安が解消できるようにする。
- ・モニターツアーの例、世界を旅行されているおそどまささんはバリアがあったらどう乗り越えるかに取り組んでいる方で、3年間鳥取県のバリアフリー観光を観光連盟のプロデューサーとして進めた。島根県の松江でのモニターツアーではその地域までは自己負担するが、2泊3日完全無料 盲導犬11頭 車椅子4台 他ボランティアが参加した。

### 戸別訪問の効果を高めるための取組アイデア

- ・アピール パンフレット作成、フォーラム開催など
- ・タクシー会社とタイアップ 宿泊施設まで乗せてもらう
- ・モニターツアー 何軒か回る 実験もあり
- ・事後に地域の盛り上がりへと持っていくためには、事業者の自らの取り組みも必要ではないか。
- ・注目度をあげるためのアイデアとして盲導犬の浴衣を用意してはどうか
- ・優しい地域を広げていくことによりこの事業が生きてくる
- ・断り方マニュアルではなくどうしたら受け入れてもらえるか説明マニュアルとする
- ・県の地域事業としては無理であるが既存の形の中では、手伝える
- ・キャンペーンを進めるにあたり、盲導犬使用者がもう一度勉強しなおす
- ・愛称ネーミングを「だんないキャンペーン」
- ・いろいろな方法が出て、全体に広がる可能性が出てきたが絞込みが必要
- ・関わりのある地域、事業者とのつながりが必要  
UD 団体 視覚障害者協会
- ・観光路線は戦略的にやる  
企業に呼びかけるにしても戦略的に選択する

- ・運輸局（県内で2ヶ所）の交通バリアフリー教室 公共事業者を巻き込んだバリアフリー体験をしている タクシー交通業者などが対象
- ・モニターツアープログラムを最終的には実施したい
- ・学校との協力が取れないか

### **次回検討会**

- ・9月3日13:30~
- ・次回はキャンペーンとしての具体的戦略をつめていく  
効果的なキャンペーンをするにはどうしたらよいか、どのくらいの規模で何をするか。
- ・9月中に決定し、役割分担を話し合う。
- ・協働を実現するにはどうしたらよいか、旅館組合、施設連合会などに利益になるようなプレゼンを持っていく
- ・県側からは、この事業ならOKと提案してもらう
- ・既存のものを如何に使っていくか、次回は、実現可能なキャンペーン戦略計画を作る